

ドロップ・サイト・デイリー、3月5日：イラン赤新月社が記録した空爆は1,300回以上；上院がイランに対する戦争権限決議を阻止；アフガニスタンとパキスタンの戦闘で66,000人が避難民に

脇浜義明訳 *脚注は訳注

イラン戦争

***米・イスラエルのイラン爆撃、5日目：**米・イスラエル軍はイランの各都市を空爆した。テヘランではメヘラーバード空港、アーザディ広場、テヘランサル、西部のチトガル一帯で爆発音が響いた。バンダレ・アッバース、ダブリーズ、ブーシェフル、ガズヴィンも爆撃され、東アゼルバイジャン州政府は数十人の死傷者を報告した。

***死傷者数：**国立殉教者・退役軍人問題財団によれば、イラン人の死者数は少なくとも1,230人になった。

***イラン赤三日月社の発表では、民間施設100か所以上が攻撃された：**3月5日、イラン赤三日月社は、米・イスラエル軍の空爆が2月28日以降1,332回もあり、少なくとも174都市と636地域で記録されたと発表した。赤三日月社によると、少なくとも105か所の民間施設が攻撃を受け、そのうちに医療施設が14か所、赤三日月社の建物7か所が含まれている。イラン外務省のエスマイル・バガエイ報道官は、米・イスラエルが意図的に民間施設を攻撃したと非難した。「侵略者は民間人居住地や、最大の苦しみと人命損失をもたらすと彼らが考える場所を意図的に標的にし、国民を残酷に虐殺している」とバガエイがXで述べた。

***米・イスラエル軍、学校とスポーツ施設を爆撃：**ファルス通信によると、米・イスラエル軍は5日にテヘランの屋内体育館2棟とアザディ・スタジアムを空爆し、スタジアムは完全に破壊された。テヘラン南西部パランドにある学校2校にもミサイルが着弾した。5日朝イスラエルは、テヘランの「インフラに対する大規模な攻撃を開始した」と発表した。

***クルド人とイランの消息筋、クルド人によるイラン侵攻報道を否定：**複数の米国高官が匿名でクルド人のイラン侵攻を報じたが、クルド人情報筋は、クルド人武装勢力がイラクからイランに越境して、反乱を引き起こし領土を奪おうとした、あるいはそういう計画があるという報道は正確ではないと、ドロップ・サイト・ニュースに語った。クルド人情報筋は、ドロップ・サイトの記者のアレクシス・ダルーミス、ライアン・グリム、ジェレミー・スケイヒルに、侵攻の事実はないと語り、イランの当局筋も国境侵攻の報告はないと言った。これは、CIAがイランを不安定化するためにクルド人に武器を与えているといるという主張の中で広まった報道であるが、現時点で、PJAKのようなクルド人組織がイラン侵攻を行う可能性は低いと、情報筋は述べている。ただ、AP通信は、一部の小規模のクルド人部隊が「待機状態」にあると報じている。

***イラクのクルド兵基地への空爆：**報道によれば、5日早朝、イラク領内半自治区クルディスタン地域のクルド人民兵が使用している施設が空爆された。イラクのメディアは、イラン国境に近いスレイマニア県で、夜通し激しい攻撃があったと報じた。攻撃の標的となったグループと攻撃を行ったグループは誰であるかは確認されていないが、ここ数日イラン革命防衛隊とその同盟のシーア派民兵組織がこの地域を攻撃している。

***イラン政府、アゼルバイジャンへのドローン攻撃を否定：**アゼルバイジャンは5日早朝、イランとの国境近くのナヒチェヴァン地域の空港が攻撃されたとして、イランを非難した。ドローン1基が空港ターミナルに着弾、もう1基がシャカラバードの学校付近に着弾し、民家人2人が負傷した。アゼルバイジャンはイランに、事件をすぐに解明して説明し、2度とこういうことが起きないように措置を講じることを要求した。アゼルバイジャン国防省は「かかる攻撃は放置できない」と声明を出した。タスニム通信は、イランのカゼム・ガリババディ外務次官は、イランはドローン攻撃とは無関係だと言った。

***ヘグゼス国防長官とケイン統合参謀本部議長、戦争のタイムラインを協議：**ピート・ヘグゼス米国防長官は、イラン戦争は最長で8週間続くと述べ、米軍とイスラエル軍は1週間以内のイラン上空で「無敵の空域」を獲得できると予想をし、米国とイスラエルは「空から1日中、死と破壊をもたらす」と宣言した。彼といっしょに記者会見をした統合参謀本部議長のダン・ケイン将軍は、イランが発射するミサイルの数は開戦当初より少なくなっており、イランの戦闘能力が低下していると述べた。「我々は今後次第にイラン領の奥深くへ攻撃を広め、戦場を内陸部にまで拡大し、米軍の機動性をさらに高める」

と言った。ヘグセス国防長官が提示した攻撃地図には、開戦初日に165人の女子小学生を殺害した学校攻撃の現場であるミナブが攻撃対象群の中に含まれているのを、記者が質問すると、長官は「調査中」とだけ答えた。

***米高官、対空防衛をすり抜けるイランのシャヘド攻撃用ドローンの脅威を警告：**CNNの報道によると、トランプ政府高官は非公開のブリーフィングで、イランのシャヘド攻撃用ドローンの迎撃は予想以上に困難で、現在の防空システムではすべての迎撃は不可能であると言った。ヘグセス長官とケイン将軍は、共同ブリーフィングで、ドローンは低空飛行が可能のために弾道ミサイルより探知が難しいと述べた。ブリーフィングに詳しい情報筋によると、ヘグセスとケインは、湾岸諸国の米国の迎撃ミサイルの豊富な備蓄をあげて、ドローンへの懸念を軽く扱おうとした。

***イラン、大型ホラムシャフル4ミサイルをイスラエルへ向けて発射：**5日、IRGC（イラン革命防衛隊）は、イスラエルを標的に大型ホラムシャフル4ミサイルを発射したと発表した。また、バーレーン、クウェート、UAEも攻撃したと主張。

***船舶攻撃でホルムズ海峡のタンカー航行量が激減：**合同海事情報センター（JMC）と船舶追跡サービス「マリン・トラフィック」の発表によると、ホルムズ海峡のタンカー航行量が約90%減少し、3月1日に1日平均138隻だった大型タンカーがわずか3〜4隻の航行になった。英国海事貿易局（MTA）の発表によると、4日の朝、オマーン北岸沖でコンテナ船が「正体不明の飛翔体」の攻撃を受けた。また、ドローンや何らかの飛翔体が少なくとも7隻の船舶に当たり、乗組員1人が死亡したという国際報道がある。この水路攻撃の影響は深刻である。ブレント原油は1バレル84.5ドル（1月は約60ドル）の高値で取引されており、ゴールドマン・サックスのアナリストは、ホルムズ海峡の混乱が今後5週間続いたら、1バレル100ドルまで上昇するかもしれないと警告している。

***カタール政府、カタールを標的にしたミサイル攻撃ではないというイランの主張を拒絶：**カタールのモハンメド・ビン・アブドルラフマン・アル・サーニ首相兼外相は、イランのアッバース・アラグチ外相との電話会談で、最近のミサイル攻撃はカタールを標的にしたものでないというイランの主張を「断固拒否する」と言った。イランのミサイルはハマド国際空港付近とLNG生産関連工業地帯を攻撃した。アル・サーニは、カタール領空に侵入したミサイル、ドローン、航空機を迎撃したが、これは主権と国際法の「明らかな侵害」であると述べ、「無視することはできない」と警告した。

***スペイン、スペインが米・イスラエルのイラン攻撃に協力することに同意したというホワイトハウスの主張を否定：**英、仏・独が米のイラン戦争への協力を表明したのに、スペインがそれを断ったので、トランプ大統領がスペインとの「すべての貿易を遮断するぞ」と警告した。その後スペインは米国のイラン攻撃に協力する姿勢に変更したとホワイトハウスが発表した。スペインはそれを否定した。ホセ・マヌエル・アルバレス外相は、イラン戦争に関するスペインの態度は「全く変わっていない」と述べ、国連憲章に従い、スペイン南部の米軍基地をイラン攻撃に使わせないと繰り返し強調した。

***ハメネイ師殺害後、イラン全土で政府支持のデモ：**4日連続でイラン各地で大規模デモが続き、最高指導者アリ・ハメネイ師の死を悼み、イラン軍への支持を表明した。トランプ米大統領がイラン国民に反政府蜂起を呼びかけたにもかかわらず、反対に政府支持の集会が開かれ、反対運動や反乱の兆候は見られない。

***ネタニヤフ、トランプにイランと停戦交渉をするなど釘を刺す：**イスラエル諜報機関が、トランプ政府が停戦に関してイランに連絡を取っているかもしれないという懸念を表明したことを受け、ネタニヤフ首相は、ホワイトハウスに説明を求めたと、[アクション](#)が報道した。米政府高官は、イランが地域の仲介者を通じて間接的にメッセージを送ってきたことがあったが、米国は無視し、イラン政府と何らの協議も行っていないと述べた。イラン政府は、そのようなメッセージを送ったことはないかと否定、イラン軍は長期戦に備えていると述べた。

レバノン攻撃

***死傷者数：**イスラエルの攻撃による死者は子ども7人を含む77人で、負傷者は527人となった。

***イスラエル軍の空爆：**5日のイスラエル軍の空爆で少なくとも8人が死亡した。南部クファル・テブニット村で一家4人、ナバティエ地域の村長夫婦を含む8人である。その前の日には、アル・ジャジーラによると、バイルート郊外のホテル

¹ 北海のブレント油田から採掘される原油で、石油価格市場で主要な位置を占める銘柄。

とレバノン東部の住宅団地が空爆され、少なくとも11人が死亡した。前者の空襲はベイルート東部ハズミエ/バーブ郊外のコンフォート・ホテルへの空爆で、後者の空爆はバールベックの団地に対するもので、5人が死亡、少なくとも15人が負傷した。また、レバノン山岳地帯への空爆では6人が死亡し、8人が負傷した。ベイルート南部郊外では数回にわたる空爆があり、この空爆の波に対し、ヒズボラは、イスラエル北部の町メットウラとサフェド近くのイスラエル軍基地にロケット弾を撃ち込んだ。

***レバノン北部のパレスチナ難民キャンプを空爆：**イスラエル軍は、南部戦線を超えて北部へ拡大し、北部のトリポリ近郊にあるアル・バダウィ難民キャンプを空爆した。レバノン国営通信社によると、この空爆でハマス幹部のワシム・アッタ・アッラー・アル・アリとその妻が死亡し、娘の1人が負傷した。このキャンプはUNRWAが1955年にトリポリの北東約5キロに処に設置したもので、数万人のパレスチナ難民とその子孫が暮らしている。住民の多くは1948年のナクバのとき、ガリラヤ、ハイファ、サフェド、ヤッフアから避難した家族で、何世代にわたってこのキャンプで暮らしている。

***イスラエル軍、ベイルート南部に非難命令発令：**5日、イスラエル軍はベイルート南部郊外のダヒエの住民に緊急避難命令を出した。3月2日以降、レバノンでは8万3000人以上がイスラエル軍によって避難を強制されている。

***レバノン国軍、武器取り締まりで27人を身柄拘束：**武装集団取り締まりの一環として、レバノン国軍は、武器弾薬の不法所持として、レバノン人26人とパレスチナ人1人の計27人を拘束したと発表した。この逮捕劇は過去2日間、レバノン各地の軍検問所で実施された。国軍は逮捕した27人についてヒズボラかどうかを明らかにしていない。

***ヒズボラ指導者、忍耐には限度があるとして、南部で活動を始めた模様：**ヒズボラの書記長ナイム・カセム師は、イスラエルとの外交は失敗に終わったと述べ、イスラエルが停戦協定を無視して攻撃を続けているのに、ヒズボラはいつまでも忍耐を続けるつもりはないと警告した。イラン戦争のエスカレーションの中、初めて公けの場で発言したカセム書記長は、ヒズボラのロケット攻撃に対するイスラエルの大規模なレバノン攻撃を「報復ではなく、計画的侵略行為」だと表現し、イスラエルの行動は一線を越えたと言った。また、4日にヒズボラは、南レバノン国境の村クファル・クフィラでイスラエル軍のメルカヴァ戦車に対する抵抗行動を撮影した映像を公開した。

ガザ・ジェノサイド、西岸地区

***イスラエルのガザ攻撃はまだ続いている：**パレスチナ側からの報告によれば、4日、イスラエル軍の空爆、砲撃、銃撃がガザ回廊各地であり、女性1人と13歳の子どもを含む4人が死亡した。ラファのアル・マワシ地区では銃撃、アル・ブレイジ難民キャンプ付近ではドローン攻撃、ガザ市では砲撃があった。目撃者によれば、アル・カララ付近で軍に身柄拘束されたパレスチナ人農民のモンタセル・サムールは、まるで現場処刑されたように体中を銃弾で打ちぬかれた状態の遺体となって返された。また、イスラエルは外国で治療を受ける必要のある患者の出国と、外国らガザへ帰るパレスチナ人の入国の妨害を続けている。AFP通信によると、イラン攻撃開始とともにイスラエルがガザ回廊を再び完全封鎖し、4日にラファのケレム・シャロム（カレム・アブ・サレム）国境検問所²クロッシングへ向かった救援トラックは100台であった。

***インドネシアはガザ「平和評議会」協議中断を発表：**インドネシアのスギアノ外相は、イラン戦争への注目が高まったため、トランプ米大統領が提案し、インドネシアも軍を派遣して支援する予定だったガザ「平和評議会」に関する協議が中断されたと述べた。ロイター通信によると、スギアノ外相は、湾岸諸国のパートナーとも、「彼らの攻撃を受けているので」、協議したと言った。

米国ニュース

***上院、イランへの軍事行動追加には議会の承認を必要とすることを求める提案を否決：**上院共和党は、イランに対する追加軍事行動には議会の承認が必要であるとする戦争権限決議案を否決し、トランプ大統領の戦争を制限しようとした議会初の試みを潰した。決議案は47対53でほぼ党派的支持で否決された。例外的に、共和党のランド・ポール上院議員

² ガザとイスラエル、ガザとエジプトの国境が交わる地点。

(ケンタッキー州) が賛成票を入れ、民主党のジョン・フェッターマン上院議員 (ペンシルベニア州) が反対票を投じた。ドロップ・サイトのジュリアン・アンドレオーネ記者によると、採決前にアレックス・パディラ上院議員 (カリフォルニア州民主党) がフェッターマンに党に反する投票をしないようにと個人的に伝えたが、無駄であった。

***シーヒー議員、反戦活動家を公聴会から引きずり出す暴力：海兵隊退役軍人で反戦活動家で緑の党の候補者でもあるブライアン・マクギニス**が、上院軍事委員会の公聴会から議会警察によって排除された。そのとき、ティム・シーヒー上院議員 (モンタナ州共和労) が演壇から飛び降りて、排除活動に加わった。マクギニスが「アメリカは自国の息子や娘をイスラエルの戦争のために送りたくない！」と叫びながら追い出されている様子を映した[動画](#)には、シーヒー議員と警官にもみくちやにされているときに彼の腕と手の骨が折れ、その音も記録されていた。

***民主党上院議員、イラン戦争への資金拠出に賛成票：『ポリティコ』報道**によると、民主党陣営は圧倒的にイラン戦争に反対しているにもかかわらず、何人かの民主党議員は軍事費投入に賛成している。枯渇しつつある兵器とミサイル防空システムの補充のために500億ドルの追加予算を検討していると伝えられるが、この予算要求案を実現するためには、上院で少なくとも7人の民主党議員の賛成票が必要である。上院軍事委員会の数名の民主党議員 - ジャック・リード (ロードアイランド州)、ゲイリー・ピーターズ (ミシガン州)、ティム・ケイン (バージニア州)、エリッサ・スロットキン (ミシガン州) - はこの戦費追加法案に賛成票を投じる可能性を排除していない。「予算の目標と計画を知ることが大事です・・・最初から排除姿勢ではいけない。つまり、我々はそれが必要な渦中にいるのです」と、スロットキン議員が言った。

***今週、全世界への関税を15%に引き上げ**：スコット・ベッセント財務長官は、今週トランプ政府の全世界に対する関税が10%から15%に引き上げられるだろうと述べた。トランプ大統領が国際緊急経済権限法 (IEPA) に基づいて課した関税を最高裁が無効とする判決をしたのに反発して、大統領がこの引き上げを発表していた。この新関税引き上げは、議会の承認なしに最大150日間の暫定関税を課すことを認める1974年の通商法第122条を援用して実施される。その150日の間に、米国通商代表部 (USTR) と商務省は、さらなる関税賦課の可能な道を模索すると、政府は言っている。

***ハイチ人亡命希望者、歯の感染症を治療されず、ICE 拘留施設で死亡**：56歳のハイチ人エマヌエル・ダマスはアリゾナ州フローレンス矯正センターに収容されていた亡命希望の男性であったが、歯の感染による敗血症で、3月2日、スコッツデールの病院で死亡したと、[アリゾナ・デイリー・スター紙](#)が報じた。チャンドラー市議会のクリスティン・エリス議員によると、ダマスが2週間にわたって激しい歯痛を訴えて続け、ついに倒れて救急車で病院へ運ばれるまで、施設はイブプロフェインを投与するだけだった。ICE は報道されて明るみになるまではダマスの死亡を公けに認めていなかった。2026年に入ってからICE 施設で死亡した人はこれで10人目となる。

***ギャビン・ニューサム、イスラエルを「アパルトヘイト国家」と批判**：カリフォルニア州知事で2028年に大統領選挙候補者でもある[キャビン・ニューサム](#)は、ポッドキャスト「セイブ・アメリカ」(米国を救え) に出演し、イスラエルをアパルトヘイト国と見做す人々がいるのは「当然」であると述べ、イスラエルの現指導者は「米国の軍事支援の見直しを必要とするような道へ米国を追いやっている」と言った。イスラエルとの共同のイラン戦争に強く反対し、「イランの政権交代を言っているのか？イスラエルは2年間もジェノサイドをやって、ハマス問題さえも解決してないじゃないか」と言った。ニューサムは、2023年10月7日以降にイスラエル訪問し、ネタニヤフ首相と会談したことがあるが、ここ数か月はイスラエルから距離を置き、AIPAC (米国イスラエル公共問題委員会) から政治資金寄付をもらっていないと宣言している。

その他の国際ニュース

***ロシアのLNGタンカー、地中海で爆発事故で沈没**：[アル・ジャジーラ](#)によれば、ロシアの液化天然ガス (LNG) タンカーのアーケティック・メタガス号は、3月3日、リビアとマルタの間の地中海上で爆発して炎上し、沈没した。プーチン大統領は、ウクライナがリビア沿岸から海軍ドローンを発射してタンカーを攻撃したと非難したが、ウクライナ政府からは何のコメントもない。ロシア運輸省は、乗組員30人全員が無事救助されたと発表し、この事件を「国際テロ」と呼んだ。一方、リビアの政府当局は、ロシア連邦ムルマンスクから約6万2000トンのLNGを積載していたタンカーが沈没したので、付近を航行する船舶に、沈没海域を避けるように警告を発した。

***ハイチの首相、解任の権力闘争を乗り越え、内閣改造：**アリックス・ディディエ・フィスエメ首相は、内閣の大半を入れ替え、11人の新閣僚と2人の国務長官を任命し、前内閣からの留任閣僚は僅か5人である。この内閣改造は、ハイチの暫定大統領評議会がフィスエメ首相解任動議の投票を認めた権力闘争の結果である³。緊張状態の間、フィスエメを支持する米国がハイチ沿岸に軍艦を派遣して圧力をかけるなど、国際的圧力と暫定大統領評議会の統治期間が終了したことによって、フィスエメの権力が維持された。彼はハイチ初の選挙と、カリブ海諸国を悩ませているギャング暴力を鎮圧する国連承認の部隊の派遣に向けて、準備を進めている。

***アフガニスタン・パキスタン国境紛争で推定6万6000人の避難民：**[国連国際移住機関 \(IOM\)](#)によると、アフガニスタンとパキスタンの戦争が7日目を迎え、国境沿いでは激しい砲撃と爆発が続き、アフガニスタンでは約6万6000人が避難民となっている。IOMは、デュランド線沿いで戦闘が激化し、住民の犠牲、インフラの破壊、物資欠乏など地域社会の人道危機を警告している。

***キューバで大規模停電：**キューバの最大火力発電所の一つで思わぬ故障が発生し、ハバナを含む多くの地で数百万人が停電に見舞われている。3月5日、キューバのエネルギー省は、電力供給は回復しつつあるが、出力は低下していると発表した。トランプ政府のキューバ封鎖と輸出入妨害のために、キューバは必要燃料の入手が非常に困難になっている。

***エクアドル、キューバ外交使節団を追放し、外交関係を格下げした：**エクアドルのダニエル・ノボア大統領政府は、キューバ大使と外交使節団を「ペルソナ・ノン・グラターエ」（好ましくない人物）と宣言し、48時間以内にエクアドルから立ち去るように命じた。エクアドル外務省の声明によると、この宣言の前にノボア大統領は駐キューバ・エクアドル大使の職務も解任しており、事実上、両国の外交関係はゼロとなっている。ウィーン条約では、国家が他国の外交官を理由なしに「ペルソナ・ノン・グラターエ」と宣言することを認めている。

***トランプは、彼の「米州の盾」サミットから左派政権を除外：**ホワイトハウスは、3月7日にトランプ大統領が彼の豪華ホテルの「トランプ・ナショナル・ドラル・マイアミ」にラテンアメリカ・カリブ海諸国の首脳を招いて、地域の安全保障、組織犯罪、移民問題、西半球への中国の影響への対策を協議する「米州の盾」サミットの開催を確認した。参加が確認されているのは、アルゼンチン、パラグアイ、エルサルバドル、エクアドル、ホンジュラス、ボリビア、ドミニカ共和国、パナマ、ガイアナの首脳たちと、チリの次期大統領、コスタリカの指導部、トリニダード・トバゴの首相である。メキシコ、キューバ、コロンビア、ベネズエラ、ニカラグアは除外され、ブラジルも出席しない。

***スーダンのディリングで砲撃のため民間人5人死亡：**[スーダン・トリビューン](#)によると、3月4日、即応支援部隊 (RSF) とスーダン人民解放運動北部 (SPLM-N) が南コルドファン州ディリング市を砲撃し、少なくとも5人が死亡し、33人が負傷した。砲弾がフライシュ、アル・マラフィド、アル・ヒッラ・アル・ジャディーダなどの住宅地を襲い、民間人が死傷し、家屋が破壊された。大混乱の中で病院が負傷者の手当てをしている。この攻撃は、RSF と SPLM-N が南コルドファン州の主要都市を再封鎖しようとした攻撃である。

***スーダンは、エチオピアが自国領からドローン攻撃を容認したとして非難：**3日、スーダンは、エチオピアが2月と3月に自国領からスーダン内の反乱分子へのドローン攻撃を容認したとして、エチオピア政府を非難した。スーダンの内戦にエチオピアが直接的に関与した初めての事例になる。スーダン外務省は、今回の攻撃は「明白な主権侵害」に当たると述べ、あらゆる利用可能な手段で反撃する権利を留保すると警告した。

***地域紛争激化の中で、イラクで全国的停電：**4日、イラク電力省は、あらゆる送電戦と発電所が同時にオフラインとなり、すべての自治体で電力供給がストップしたので、国中の電力システムの完全停止を**発表**した。米国、イスラエル、イランの戦争が激化する中で、イラク国内の不安定化も増大、今回の電力系統の停止の原因も不明である。

ドロップ・サイトの米議会取材

***[ドロップ・サイト](#)**は、軍務経験がある民主党議員に対し、トランプ政権のイラン戦争の正当化理論の変化、とりわけイスラエルの戦争と関連について質問した。パット・ライアン下院議員（ニューヨーク州）は、マルコ・ルビオ国務長官が

³ 評議員7人中5人が解任動議に賛成して可決したが、ローラン・サン・シル議長が署名しなかったこと、米国の支援もあって、首相に留まり、2月6日には評議会の暫定統治期間が終了したので、フィスエメが国家元首を事実上兼任することになった。

「24時間でほぼ12回も発言を変えた」と言って、政府は「嘘をついているか、それとも混乱しているかどちらかだ」と断じた。ギル・シスネロス下院議員（カリフォルニア州）もトランプ政権の矛盾を指摘した。ジミー・バネッタ下院議員（カリフォルニア州）は、最終的決定権はトランプ大統領にあり、「これはイスラエルの問題ではなく、トランプがイラン攻撃を」選択したのだと述べた。

*ブライアン・シャッツ上院議員（ハワイ州、民主党）はトランプ大統領のイラン攻撃を「必要による戦争」でなく、「わざわざ選択した戦争」だと呼び、イランのミサイル計画を米国にとって「差し迫った脅威」というトランプ発言に異議を唱えた。

*コリー・ブッカー上院議員（ニュージャージー州民主党）は、ドロップ・サイトのアンドレオーネ記者が、米国がイランを攻撃したのはイスラエルが先制攻撃をしかけるからだトルビオ国務長官が発言したことをどう思うかと質問したが、イスラエルに関する言及を拒否し、戦費のために学校給食費や医療費の削減を持ち出し、「憲法危機だ」と話した。

ドロップ・サイトの追加情報

*リラ・ユース記者が、イスラエル軍のレバノン全土への爆撃で、3月2日から数万人の避難民が出ていることを取材した。詳細は[ドロップ・サイト・ニュース](#)で読みたい。

*ジャーナリストのジェレミー・スケイヒルは4日に、イランのエスマイル・バガエイ外務次官と[独占インタビュー](#)を行った。多くの議論を行った中で、彼はイランが攻撃標的にしている場所の問題を取り上げ、イスラエルはそれを利用して、湾岸諸国を対イラン戦争に巻き込むために、イランが湾岸諸国を攻撃目標にしているという「偽旗作戦」をやっていることを指摘した。バガエイ次官は、イランが米国に差し迫った脅威を与えているという米政府の主張を「大嘘」と一蹴した。

「我々がロサンゼルスなどの米都市を攻撃するためにメキシコ湾や太平洋に来たというのか？ 米国軍が6500マイルも離れたイラン海岸まで来たのではないのか？」と、彼は言った。30分間のインタビューの全文は、[ドロップ・サイト・ニュース](#)で読みたい。

*ドロップサイト・ワシントン特派員のジュリアン・アンドレオーネは、議員らに対し、水曜日に上院で否決された戦争権限法について、どのように投票するつもりか、また下院で本日採決予定の同法案について質問を続けてきた。回答のまとめは[こちら](#)で閲覧可能。